

# 樹医からのアドバイス (Vol.03)

～樹木に寄生するカイガラムシを駆除しよう～

出雲市樹医センター

樹医 高橋 義則

庭木や果樹に、殻を背負った小さな虫がびっしり付いているのを見たことはありませんか。今回は樹木に寄生するカイガラムシを紹介します。

## カイガラムシとはどんな虫？

カイガラムシは、種類が非常に多く、約 400 種類が存在します。その姿はさまざまで、殻をかぶったもの、体がロウ物質や粉に覆われているもの、逆に殻のないものもあります。大きさは種類によって～5 mm。色は白、茶褐色、紫褐色など。繁殖回数は年 1～3 回程度です。成虫は木に張り付いたまま越冬し、5～7 月に幼虫が現れます。

この虫は樹木の葉や幹に寄生して吸汁するため、被害木は成長が阻害されて衰弱し、ひどい時には枝が枯れることもあります。また、カイガラムシの排せつ物は、葉や幹がカビで覆われる「すす病」などの原因となります。

## 駆除方法は？

風通しを良くすることが大切です。特に足元に風が通るようにすると良いでしょう。虫が多数寄生している枝葉は切除し、幹の虫体はヘラや歯ブラシでこすり落とします。落ちた虫はほとんど死滅しますが、生き残りの繁殖に注意して翌年も被害木を観察するようにしましょう。

薬剤を使用する場合は、幼虫発生期に「スプラサイド乳剤」(1000～1500 倍)や「カルホス乳剤」(1000 倍)を散布します。園芸用各種エアゾルも効果があるので、小さな木であれば手軽に使えて便利です。



カイガラムシの一種「ツノロウムシ」

資料提供：(公社) 農林水産・食品産業技術振興協会 (<http://www.jataff.jp/>)